

ブータン王国における胃癌撲滅のためのパイロットプロジェクト (2019年～2023年)

世界有数の胃癌多発国ブータン“胃癌撲滅モデル構築”

■ 実施団体：

特定非営利活動法人胃癌を撲滅する会

■ 対象国・地域：

ブータン王国ティンパーパロ郡
ドガー地域ダワカ村



■ 現地カウンターパート

ブータン医科大学

■ 協力内容：

1. ダワカ村住民にピロリ菌と胃癌の危険性を理解し検診に積極的に参加してもらうためにブータン医科大学と共に**住民への啓発活動を実施。**
2. **検査技師にピロリ菌の検査方法を習得させるための研修を実施。**ピロリ菌検査技術の精度確認、技術フォローを実施。
3. ブータン医師が胃癌発見のための検査法を獲得するために、**内視鏡トレーニング、胃癌検査技術の研修を実施。**E-learningによる技術向上。

■ 団体のこれまでの取り組み：

日本で得た多くの革新的な技術や知見を胃癌の発生率が高い国と共有し**胃癌撲滅の一助になりたいという思いから設立された医師のプロ集団。**

2010年よりブータンの5か所でピロリ菌と胃癌の調査活動を行い、住民に無償で上部消化管内視鏡検査を実施。被検者のピロリ菌感染率が8割に達する事実を報告。さらに早期胃癌を発見するための内視鏡技術を開発した他、e-learningシステムを開発し、学習効果を学術誌に報告。

■ 事業実施の背景：

ブータンは世界有数の胃癌多発国であり、胃癌は癌死亡率の1位を占める。対策として、ピロリ菌の除菌、死亡率低下のための胃癌の早期発見が重要。かつて胃癌多発国でありそれを克服してきた日本の胃癌発見の知見と技術をブータンの医師と共有し、ピロリ菌の危険性、胃癌や潰瘍の予防や早期胃癌発見の手段を伝え、**胃がん撲滅に必要な対策を一定のモデル地域の住民および医療関係者に伝授し、成功モデルを作ることを目指した。**

ブータン国の課題と成果

課題① モデル地区ダワカでは12歳以上の全住民検査(1,164名)で、73%がピロリ菌の感染が認められた。

成果① 18歳以上の陽性者に除菌を行い、その内78%の住民は感染が消失。残りの陽性者も二次除菌を行い陰性となった。胃癌リスク群からは4名の早期胃癌が発見され、治療に至った。

課題② 事業開始時ブータンには胃癌発見に必須な内視鏡技術を有する医師は数名しかおらず不足していた。

成果② 内視鏡トレーニング、胃癌検査技術の研修を実施。**2023年に初めてブータン人医師らが内視鏡検査で早期胃癌を発見し、診断技術の向上が認められた。**

事業の波及効果

胃癌撲滅国家プロジェクト開始！



モデル地区の動向は常時**ブータンのロテ・ツェリン首相に報告**され、このモデルと類似の胃癌撲滅国家プロジェクトが開始され、2022年度には**全国レベルで**ピロリ菌検査と除菌、陽性者に対する内視鏡検診が実施された。SATREPS「ピロリ菌感染症関連死撲滅に向けた中核拠点形成事業」とも連携。